

## 【平成 17 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：鳥居 英男 担当科目名：英語

## 1. 授業評価について

- (1) 意義：教育の質的充実と大学教育参画者の満足と効果を高めることにつながりうる。学生の為にある教育サービスが陥りやすい教師の独善や勘違いを正す機能は大。
- (2) 活用：授業の更なる向上の指針となるべく大いに活用している。しかしこの種の調査では対応できない側面の重要性も蔑ろにしないよう独自の調査も別に行なっている。
- (3) フィードバック：本調査初年度は「各回答率分布表(生の数字記載)」を学生全員に配布(後回収)し感想を書かせた。次年度からは使用教材各種を含むアンケートを実施。

## 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：「英語」とは異質の授業を二教科見学させていただいたが、大いに参考になった。専門分野が同じ教員同士が相互評価し合えば、更に有効であろう。
- (2) 活用：相互評価を実施した以上、お互いの論評を文書のみでなく、口頭で腹藏なく意見を交換し合う機会を持つことが望ましい。

## 3. 自己評価点 (2)

根拠：年間計画上の授業を平常通りに行なったが、学生にとってやや関心の薄い内容だったため、お互いに乗りが悪かった。

## 4. 教育指導上の工夫について

毎年四月の授業初日に「英語」に関する実力テストとアンケートを実施している。例年約 9 割以上が中学 3 年生のレベルにも達していない状況は誠に嘆かわしい。当然のことながら、「英語」に対する関心も、「好き」が 7～10%、「嫌い」が 70～80%である。

これを十分に勘案して作成した平易な試験の結果も 8 割が不合格で追再試験となる。

大部分の学生が目指している資格取得に於いて「英語」は眼中に無い。「英語」を学ぶことを第一目標として入学してくる学生は一人もいない。この厳しい現実には授業改善以前の極めて深刻な問題である。

本学における英語授業の基点は実力養成ではない。興味喚起である。従って一点集中方式は不向きな為、様々な教材を作成し、授業中はリズムとテンポに十分配慮する必要がある。時には英語に纏わる余談を交えることになる。一方それぞれの分野の採用試験に合格するだけの学力はつけさせねばならない。外国語学習の性質上、授業のみでは不十分であり且つ学力不足者を救う目的もあり、自宅学習としての課題プリント(レベル別 3 種類)を数回全員に提出させている。

授業では視聴覚に訴える映画やビデオ教材は必須アイテムだが、学生の興味、学力に合わせたシナリオやプリント作りも欠かせない。しかしこれらの作成時間と労力が学生の関心喚起、学力向上に必ずしも比例しないことがあるのは皮肉である。

映画の選択には、内容の面白さ英語の適切さなど、かなり制約があるが、春休みに教材用シナリオを更にいくつか作成するつもりである。果たして有効機能するかどうか気掛かりだが、どの様な授業ができるか楽しみである。

## 【平成 18 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：鳥居 英男 担当科目名：英語

## 1. 授業評価について

- (1) 意義：教育の質的充実と大学教育参画者の満足と効果を高めることにつながりうる。学生の為にある教育サービスが陥りやすい教師の独善や勘違いを正す機能は大。
- (2) 活用：授業の更なる向上の指針となるべく大いに活用している。しかしこの種の授業調査では対応できない側面の重要性も蔑ろにしてはならない。独自の調査も別に行なっている。
- (3) フィードバック：本調査初年度は「各回答率分布表(生の数字記載)」を学生全員に配布(後回収)し感想を書かせた。次年度からは使用教材各種を含むアンケートを実施している。

## 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：科目に関わらず授業を参観させていただくことは、自らの授業改善に資することが多い。専門分野が同じ教員同士が相互評価し合えば、更に有効であろう。
- (2) 活用：相互評価を実施した以上、お互いの論評を文書のみでなく、口頭で腹藏なく意見を交換し合う機会を持つことが望ましい。

## 3. 自己評価点 (2)

根拠：映画による授業時間が例年より少なかったこと。数年前に新たに加えた TOEIC の listening に対する反応が、危惧していた通り思わしくなかったこと。

## 4. 教育指導上の工夫について

本学では、資格取得を目指そうと目指すまいと、いずれも英語学習を主目的に位置づけて入学してくる学生は皆無である。更に、学生の 90 パーセントは英語嫌いで、学力たるや中学 2 年生にも覚束ない。この現状は「学生による授業評価」を云々する以前に極めて深刻な問題である。短大生の基礎的教養の一つとしての英語にまず興味を持たせることから始めなければならない。そのために作成する様々な教材への学生の反応を、いち早く察知できるかどうか勝負となる。

英語授業の基点は実力養成ではない。興味喚起である。従って教材も一点集中方式は不向きであり、授業中もリズムとテンポに十分配慮する必要がある。時には英語に纏わる余談を交えることになる。一方それぞれの分野の採用試験に合格するだけの学力もつけさせねばならない。外国語学習の性質上、授業のみでは不十分であり且つ学力不足者を救う目的もあり、自宅学習としての課題プリント(レベル別 3 種類)を数回全員に提出させている。

授業では視聴覚教材は必須アイテムだが、本学学生向きの映画の選択とシナリオ作りは非常に困難であり、作成時間が学生の関心喚起、学力向上に必ずしも比例しないことがあるのは自明の理である。

毎年春休みに教材用シナリオを更にいくつか作成している。果たして有効機能するかどうか気掛かりだが、どの様な授業ができるか楽しみでもある。

【平成 19 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：鳥居 英男	担当科目名：英語
----------	----------

1. 授業評価について

- (1) 意義：教育の質的充実と大学教育参画者の満足と効果を高めることにつながりうる。学生の為にある教育サービスが陥りやすい教師の独善や勘違いを正す機能は大。
- (2) 活用：授業の更なる向上の指針となるべく大いに活用している。しかしこの種の授業調査では対応できない側面の重要性も蔑ろにしてはならない。独自の調査も別に行なっている。
- (3) フィードバック：本調査初年度は「各回答率分布表（生の数字記載）」を学生全員に配布（後回収）し感想を書かせた。次年度からは使用教材各種を含むアンケートを実施している。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：科目に関わらず授業を参観させていただくことは、自らの授業改善に資することが多い。専門分野が同じ教員同士が相互評価し合えば、更に有効であろう。
- (2) 活用：相互評価を実施した以上、お互いの論評を文書のみでなく、口頭で腹藏なく意見を交換し合う機会を持つことが望ましい。

3. 自己評価点 (2)

根拠：映画による授業時間が例年より少なかったこと。今年新たに加えた TOEIC の listening に対する反応が、危惧していた通り思わしくなかったこと。

4. 教育指導上の工夫について

本学では、資格取得を目指そうと目指すまいと、いずれも英語学習を主目的に位置づけて入学してくる学生は皆無である。更に、学生の 80 パーセントは英語嫌いで、学力たるや中学 2 年生にも覚束ない。この現状は「学生による授業評価」を云々する以前に極めて深刻な問題である。短大生の基礎的教養の一つとしての英語にまず興味を持たせることから始めなければならない。そのために作成する様々な教材への学生の反応を、いち早く察知できるかどうか勝負となる。

英語授業の基点は実力養成ではない。興味喚起である。従って教材も一点集中方式は不向きであり、授業中もリズムとテンポに十分配慮する必要がある。時には英語に纏わる余談を交えることになる。一方それぞれの分野の採用試験に合格するだけの学力もつけさせねばならない。外国語学習の性質上、授業のみでは不十分であり且つ学力不足者を救う目的もあり、自宅学習としての課題プリント（レベル別 3 種類）を数回全員に提出させている。

授業では視聴覚教材は必須アイテムだが、本学学生向きの映画の選択とシナリオ作りは非常に困難であり、作成時間が学生の関心喚起、学力向上に必ずしも比例しないことがあるのは自明の理である。

毎年春休みに教材用シナリオを更にいくつか作成している。果たして有効機能するかどうか気掛かりだが、どの様な授業ができるか楽しみでもある。

【平成 20 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：鳥居 英男	担当科目名：英語
----------	----------

1. 授業評価について

- (1) 意義：教育の質的充実と大学教育参画者の満足と効果を高めることにつながりうる。学生の為にある教育サービスが陥りやすい教

師の独善や勘違いを正す機能は大。

- (2) 活用：授業の更なる向上の指針となるべく大いに活用している。しかしこの種の授業調査では対応できない側面の重要性も蔑ろにしてはならない。独自の調査も別に行なっている。
- (3) フィードバック：本調査初年度は「各回答率分布表（生の数字記載）」を学生全員に配布（後回収）し感想を書かせた。次年度からは使用教材各種を含むアンケートを実施している。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：科目に関わらず授業を参観させていただくことは、自らの授業改善に資することが多い。専門分野が同じ教員同士が相互評価し合えば、更に有効であろう。
- (2) 活用：相互評価を実施した以上、お互いの論評を文書のみでなく、口頭で腹藏なく意見を交換し合う機会を持つことが望ましい。

3. 自己評価点 (2)

根拠：映画による授業時間が例年より少なかったこと。数年前に新たに加えた TOEIC の listening に対する反応が、危惧していた通り思わしくなかったこと。

4. 教育指導上の工夫について

本学では、資格取得を目指そうと目指すまいと、いずれも英語学習を主目的に位置づけて入学してくる学生は皆無である。更に、学生の 80 パーセントは英語嫌いで、学力たるや中学 2 年生にも覚束ない。この現状は「学生による授業評価」を云々する以前に極めて深刻な問題である。短大生の基礎的教養の一つとしての英語にまず興味を持たせることから始めなければならない。そのために作成する様々な教材への学生の反応を、いち早く察知できるかどうか勝負となる。

英語授業の基点は実力養成ではない。興味喚起である。従って教材も一点集中方式は不向きであり、授業中もリズムとテンポに十分配慮する必要がある。時には英語に纏わる余談を交えることになる。一方それぞれの分野の採用試験に合格するだけの学力もつけさせねばならない。外国語学習の性質上、授業のみでは不十分であり且つ学力不足者を救う目的もあり、自宅学習としての課題プリント（レベル別 3 種類）を数回全員に提出させている。

授業では視聴覚教材は必須アイテムだが、本学学生向きの映画の選択とシナリオ作りは非常に困難であり、作成時間が学生の関心喚起、学力向上に必ずしも比例しないことがあるのは自明の理である。

毎年春休みに教材用シナリオを更にいくつか作成している。果たして有効機能するかどうか気掛かりだが、どの様な授業ができるか楽しみでもある。

【平成 17 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：黒田 圭一	担当科目名：食品学実験 I
----------	---------------

1. 授業評価について

- (1) 意義：授業を進める上で自分が気づかない点を授業評価から知ることが出来、授業改善に役立つ。
- (2) 活用：授業評価の結果を考慮して今後の授業改善に活用したい。
- (3) フィードバック：授業で学生へフィードバックしている。

2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：教員相互の授業評価は、自分で気づかない問題点を知ることが出来、授業改善の参考となる。
- (2) 活用：評価をしていただいた教員とよく検討して授業改善に活用

したい。

### 3. 自己評価点 (4)

根拠：受講生は食品学実験特を履修したことで食品成分表の成分値の求め方、意味が理解できた。加えて実験の基礎知識、器具の取り扱い方が理解できた。

### 4. 教育指導上の工夫について

先ず基礎的な化学の分野を教授して理解してもらう。高校時代に化学を履修していない学生、履修はしたが忘れてしまっている学生が多いので先ず基礎的な化学の分野を教授して理解してもらう。また実験の基礎となる基本的な実験技術の修得を行って実験に取り組む態度を養うために全員が各々実験操作に取り組むことが出来るように行った。

毎回授業では実験の原理や目的などを講義し、次いで実験手順等の説明と操作法のデモンストレーションを行い、さらにポイントとなることや注意すべきことを再確認した上で実験にはいることにより理解しやすく進めていた。

### 【平成 18 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：黒田 圭一	担当科目名：食品学実験Ⅱ
----------	--------------

#### 1. 授業評価について

- (1) 意義：授業を進める上で自分が気づかない点を授業評価から知ることが出来、授業改善に役立つ。
- (2) 活用：授業評価の結果を考慮して今後の授業改善に活用したい。
- (3) フィードバック：授業で学生へフィードバックしている。

#### 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：教員相互の授業評価は、自分で気づかない問題点を知ることが出来る。
- (2) 活用：評価をしていただいた教員の意見をよく検討して授業改善に活用したい。

### 3. 自己評価点 (4)

根拠：受講生は食品学実験Ⅱの履修で、講義で勉強した食品成分について、実験による分析をすることにより理解が深まった。加えて実験の知識、器具の取り扱い方が理解できた。

### 4. 教育指導上の工夫について

毎回授業では実験の原理や目的などを講義し、次いで実験手順等の説明と操作法のデモンストレーションを行い、さらにポイントとなることや注意すべきことを再確認した上で実験にはいることにより理解しやすく進めていた。

また実験を通して今まで勉強したことを確認しながら進めていった。

### 【平成 19 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：黒田 圭一	担当科目名：食品学Ⅱ
----------	------------

#### 1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の授業のについて意見・要望を知ることが出来る。試験の結果からは分からない学生の理解度を把握できる。
- (2) 活用：授業評価の結果を考慮して今後の授業改善に活用したい。
- (3) フィードバック：学生へ授業時にフィードバックしている。

#### 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：
- (2) 活用：

### 3. 自己評価点 (3)

根拠：学生は食品学Ⅱの受講で、食品材料に興味を持ち、専門の知識を得ることが出来た。しかし前期で履修した食品学Ⅰの分野を修得していない学生がおり、そのため食品学Ⅱで勉強したことが十分理解できない学生がいた。

### 4. 教育指導上の工夫について

食品学Ⅱの教科書と食品学Ⅰの教科書を常に持参することとして、授業を進める際に食品学Ⅰのところを復習しながら進めていった。重要なポイントをその都度、提示しながら授業を進めた。

改善点は、もっと写真を活用することにより学生の興味、理解を深められと思われた。

### 【平成 20 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：黒田 圭一	担当科目名：食品学Ⅱ
----------	------------

#### 1. 授業評価について

- (1) 意義：授業に対する、学生の意見・要望を知ることが出来る。試験の結果からは分からない学生の理解度を把握できる。
- (2) 活用：授業評価の結果を検討して今後の授業改善に活用する。
- (3) フィードバック：学生へ授業の時に説明し、フィードバックしている。

### 2. 自己評価点 (4)

根拠：学生は食品学Ⅱの受講で、食品材料に興味を持ち、専門の知識を得ようとした。ただ、残念なことに前期で履修した食品学Ⅰの内容を忘れてしまっていた学生がおり、そのため食品学Ⅱで勉強したことが十分理解できない学生がいた。

### 3. 教育指導上の工夫について

食品学Ⅱの授業内容をよく理解するうえで、前期履修した食品学Ⅰの内容を理解していることが必要である。そのため食品学Ⅱの授業時には、食品学Ⅰの教科書を常に持参することとして、授業を進める際に食品学Ⅰのところを復習しながら進めていった。重要なポイントは、その都度、提示しながら授業を進めた。

改善点として、よくできる学生に関して補習授業等で、より深い内容を教授していきたい。

### 【平成 17 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：原田 まつ子	担当科目名：栄養学実習
-----------	-------------

#### 1. 授業評価について

- (1) 意義：調査項目における学生の授業に対する傾向が把握でき、授業を客観的に把握できる。
- (2) 活用：今後授業を行う上で参考にしていきたい。
- (3) フィードバック：評価の低い項目においては、改善を進めていきたい。

#### 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：一回の授業参観でしかも専門以外の授業を相互評価するには、授業形態、進行状況、内容等も異なりただの参観になり、一部のみを見ることになってしまう。
- (2) 活用：授業環境（設備）等について、客観的に指摘していただいた為、施設充実の要望に活用したい。

### 3. 自己評価点 (3)

根拠：(授業計画は予定通り進められたが、一部の学生にとっては無

理な内容であったため。)

#### 4. 教育指導上の工夫について

この授業は、調理学、基礎栄養学、栄養生理、栄養指導・教育論などの授業の集大成とも言うべき教科である。

調理から献立作成、人間の生理、代謝さらに食行動等までを踏まえてライフステージ別に栄養管理を進めていくには、どのようにしたらよいかを理解、実習をし、習得していく授業である。

従って、既に学習した関連科目が理解されていないため、講義では関連科目の繰り返しを行い、理解を求めることになる。

理解には、個別対応し時間を設けている。

献立から調理実習での展開では、全班献立の内容も違うため、出来上がった料理を並べるが、調理室が狭いため、横一列に並べ比較することができない、検討会を行う場がない等の問題も起き、また、献立についての根拠を学生が述べるのに料理が並列でないため、理解が困難な面もできている。

#### 【平成 18 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：原田 まつ子 担当科目名：栄養教育論実習

##### 1. 授業評価について

- (1) 意義：授業について、授業を客観的に把握ができるが、しかし、学生自身の自己評価能力を育てる必要がある。
- (2) 活用：今後授業を行う上で参考にしていきたいが、学生自身の評価が全てとは言いがたい。
- (3) フィードバック：評価の低い項目においては、改善ができるものは進めていきたい。

##### 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：一回の授業参観でしかも専門以外の授業を相互評価するには、授業形態、進行状況、内容等も異なりただの参観になり、一部のみを見ることになってしまう。
- (2) 活用：客観的に指摘していただいた点は、時間があれば参考にしていきたい。

##### 3. 自己評価点 (3)

根拠：授業内容によっては、例題、ワークシートを作成し演習し理解した後、パソコンを活用しての演習を行う授業を進めていったが、学生には難しいようであるため、さらに簡単な栄養関連の身近な例題を多く作成し演習を重ねる必要がある。

#### 4. 教育指導上の工夫について

この授業の内容については、人間が健康を維持・増進していくのに、現在の食行動の問題点を変容するための指導・教育方法の技法を習得する授業である。従って、具体的な指導方法や問題点を視聴覚やパソコンの活用を利用し、資料の作成、情報の収集・収集したデータの活用を実施しているが、視聴覚を活用した発表・次時限のフィードバックし討論・協議を実施した授業では、学生の理解度が深まっていると思われる、今後さらにこれらを活用した授業を進めて生きたい。しかし、データを集計・処理解析することに関しては、プリントの配布により特にワークシートの活用を実施しているが、学生自身の理解が低く理解を深めるように促すことがさらに必要と思われる。

単に授業評価は、学生からのデータの収集することだけが目的ではないと思われ、授業担当者自身が問題視し、授業の

質の向上のあり方を試行錯誤して努力しているとおもわれるため、むしろ学生の学ぶ姿勢や目的意識をどのようにするか課題と思われる。

#### 【平成 19 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：原田 まつ子 担当科目名：栄養学実習

##### 1. 授業評価について

- (1) 意義：授業を客観的に把握ができるが、しかし、学生自身に評価能力があるか疑問であるため、授業評価そのものに意義があるか問題である。
- (2) 活用：今後授業を行う上で参考にしていきたいが、学生自身の評価が全てとは言いがたい。
- (3) フィードバック：評価の低い項目においては、改善ができるものは進めていきたい。

##### 2. 自己評価点 (3)

#### 3. 教育指導上の工夫について

この授業は、調理学、基礎栄養学、栄養生理、栄養指導・教育論などの授業の集大成とも言うべき教科である。

調理から献立作成、人間の生理、代謝さらに食行動等までを踏まえてライフステージ別に栄養管理を進めていくには、どのようにしたらよいかを理解、実習をし、習得していく授業である。

従って、既に学習した関連科目が理解されていないため、講義では関連科目の繰り返しを行い、理解を求めることになる。

理解には、個別対応し時間を設けている。

献立から調理実習での展開では、全班献立の内容も違うため、出来上がった料理を並べるが、調理室が狭いため、横一列に並べ比較することができない、検討会を行う場がない等の問題も起き、また、献立についての根拠を学生が述べるのに料理が並列でないため、理解が困難な面もできている。

#### 【平成 20 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：原田 まつ子 担当科目名：栄養指導論実習

##### 1. 授業評価について

- (1) 意義：授業について、授業を客観的に把握ができるが、しかし、学生自身の自己評価能力を育てる必要がある。
- (2) 活用：今後授業を行う上で参考にしていきたいが、学生自身の評価が全てとは言いがたい。
- (3) フィードバック：評価の低い項目においては、改善ができるものは進めていきたい。

##### 2. 自己評価点 (3)

根拠：授業内容は、栄養指導の技術を習得するためコーチングやカウンセリング等の演習に学生の興味や関心もち、栄養士となることへの認識を高めさせた。

#### 3. 教育指導上の工夫について

この授業は、人間が健康を維持・増進していくのに、現在の食行動の問題点を変容するための指導の技法を習得する授業である。従って、コーチング・カウンセリングの技法を用いた指導には、学生相互において、ロールプレイング法を用いた実習することが、学生の興味や関心を高め必要な知識を習得したと思われる。

一方、媒体として使用するパソコン操作には、既に情報基礎演習で基本的操作は習得しているにも関わらず個人差が大きく、操作が目的としている学生も多く、手段として使用するのに基本的操作を習得して授業に臨んでいただかないと、本来の授業を進むのに困難な状況が生じてくるのが現状であるため、基礎的な部分を十分に理解習得することへの周知徹底を学生に臨む。

単に授業評価は、学生からのデータの収集することだけが目的ではないと思われる。授業担当者自身が問題視し、授業の質の向上のあり方を試行錯誤するものであり、むしろ学生の学ぶ姿勢や目的意識と動機づけをどのようにするかが課題と思われる。

### 【平成 17 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：加藤 由美子 担当科目名：給食管理実習(校内Ⅰ)

#### 1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の授業に対する各項目別傾向の把握でき、教員独断でなく客観的に判断できる点ではよいと思う。
- (2) 活用：学生の要望を全面的にうのみにする事はできないが、今後の授業を進める上で有効と思われる点については参考にし、活用していきたい。
- (3) フィードバック：評価が低い項目に対しては、学生の動向を観察しながら改善を進める。

#### 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：専門外の場合、内容・形態が異なるので自分の授業に活かしにくい。評価された授業も、授業を通して観察しないと評価しにくく、ただの参観になってしまいがちの感がある。
- (2) 活用：参観教員が1名であり、短時間であったこと、また一般的な評価であったので、活用しにくい。

#### 3. 自己評価点 (3)

根拠：(法規改正に伴う新しい情報については、その都度資料作りをしてきたが、予定していた計画が遂行できなかったため。)

#### 4. 教育指導上の工夫について

この授業は、入学して、りんごの皮むきもおぼつかない学生が、半年経過後①「対象者に対しての大量調理」を実施し、提供する科目であるが、②試験も実施するので、この2点から述べる。

①1年前期に行う調理実習と比較すると、取り組み方が消極的な者ほど実習前後のギャップを感じているようである。(盛り付けにこんなに長い時間かかるとは思わなかった等)そのため、過去に実施した失敗例や成功例をなるべく多く話し、事前準備の重要性を理解してもらうよう努めている。しかし、この授業中は、学生により形態がまちまちのため、話す時間は他の時間を使用している。また、クラス全員がカフェテリアに入室できないため、半数は教室で課題を与えているが、その間教員・助手の監督ができず、学生のみで過ごさせているのが悩みである。

②既に学習した関連科目との系統立てた理解ができていない。前期に学習する調理学では、大量調理について具体例を提示し、比較しながら授業を行っているが、今ひとつ身に付いていない。また、分数や割合(%)の計算ができない学生も多く、塩を○%濃度の加工調味料へ換算すると何g必要かということ以前に、できあがりの料理を○:△:□で分配した場合の計算ができない。その計算方法を理解させ

ようとしても理解できないので、分数の算出方法を教えてから始めるため、個別対応に多くの時間を必要とする。複数の教科(心身も含む)で問題を抱えている学生も多いため、教員相互の話し合いの場(教授会(教員)等)も必要と思われる。

### 【平成 18 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：加藤 由美子 担当科目名：給食管理実習(校内Ⅰ)

#### 1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の授業に対する各項目別傾向の把握でき、教員独断でなく客観的に判断できる点ではよいと思う。
- (2) 活用：学生の要望を全面的にうのみにする事はできないが、今後の授業を進める上で有効と思われる点については参考にし、活用していきたい。
- (3) フィードバック：評価が低い項目に対しては、学生の動向を観察しながら改善を進める。

#### 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：専門外の場合、内容・形態が異なるので自分の授業に活かしにくい。評価された授業も、授業を通して観察しないと評価しにくく、ただの参観になってしまいがちの感がある。
- (2) 活用：参観教員が複数であるとよいが、1名で短時間であったので、活用しにくい。しかし、私の授業を2箇所同時で授業することで、目配りの困難さを理解していただいたことは、他の教員の授業を参観することで、その運びの困難さを共通課題として話し合いができるよう展開できる機会となるのではないかと思います。

#### 3. 自己評価点 (3)

根拠：(法規改正に伴う新しい情報については、その都度資料作りをしてきたが、予定していた計画が遂行できなかったため。)

#### 4. 教育指導上の工夫について

この授業は、入学して、りんごの皮むきもおぼつかない学生が、半年経過後①「対象者に対しての大量調理」を実施し、提供する科目であるが、②試験も実施するので、この2点から述べる。

①1年前期に行う調理実習と比較すると、取り組み方が消極的な者ほど実習前後のギャップを感じているようである。(盛り付けにこんなに長い時間かかるとは思わなかった等)そのため、過去に実施した失敗例や成功例をなるべく多く話し、事前準備の重要性を理解してもらうよう努めている。しかし、この授業中は、学生により形態がまちまちのため、話す時間は他の時間を使用している。また、クラス全員がカフェテリアに入室できないため、半数は教室で課題を与えているが、その間教員・助手の監督ができず、学生のみで過ごさせているのが悩みである。

②既に学習した関連科目との系統立てた理解ができていない。前期に学習する調理学では、大量調理について具体例を提示し、比較しながら授業を行っているが、今ひとつ身に付いていない。また、分数や割合(%)の計算ができない学生も多く、塩を○%濃度の加工調味料へ換算すると何g必要かということ以前に、できあがりの料理を○:△:□で分配した場合の計算ができない。その計算方法を理解させようとしても理解できないので、分数の算出方法を教えてから始めるため、個別対応に多くの時間を必要とする。

複数の教科（心身も含む）で問題を抱えている学生も多いため、教員相互の話し合いの場（教授会（教員）等）も必要と思われる。

## 【平成 19 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：加藤 由美子 担当科目名：給食管理実習（校内Ⅰ）

### 1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の授業に対する各項目別傾向の把握でき、教員独断でなく客観的に判断できる点ではよいと思う。
- (2) 活用：学生の要望を全面的にうのみにする事はできないが、今後の授業を進める上で有効と思われる点については参考にし、活用していきたい。
- (3) フィードバック：評価が低い項目に対しては、学生の動向を観察しながら改善を進める。

### 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：
- (2) 活用：

### 3. 自己評価点 (3)

### 4. 教育指導上の工夫について

この授業は、入学して、りんごの皮むきもおぼつかない学生が、半年経過後①「対象者に対しての大量調理」を実施し、提供する科目であるが、②試験も実施するので、この2点から述べる。

①1年前期に行う調理実習と比較すると、取り組み方が消極的な者ほど実習前と後のギャップを感じているようである。（盛り付けにこんなに長い時間かかるとは思わなかった等）そのためには、過去に実施した失敗例や成功例をなるべく多く話し、事前準備の重要性を理解してもらうよう努めている。しかし、この授業中は、学生により形態がまちまちのため、話す時間は他の時間を使用している。また、クラス全員がカフェテリアに入室できないため、半数は教室で課題を与えているが、その間教員・助手の監督ができず、学生のみで過ごさせているのが悩みである。

②既に学習した関連科目との系統立てた理解ができていない。前期に学習する調理学では、大量調理について具体例を提示し、比較しながら授業を行っているが、今ひとつ身に付いていない。また、分数や割合（%）の計算ができない学生も多く、塩を○%濃度の加工調味料へ換算すると何g必要かということ以前に、できあがりの料理を○：△：□で分配した場合の計算ができない。その計算方法を理解させようとしても理解できないので、分数の算出方法を教えるから始めるため、個別対応に多くの時間を必要とする。

複数の教科（心身も含む）で問題を抱えている学生も多いため、教員相互の話し合いの場（教授会（教員）等）も必要ではないかと思われる。

その他：男子学生の入学に伴い、実習室の調理台の高さが合わない傾向にあるため、今後入れ替えを検討している。

- (2) 活用：学生の要望を全面的にうのみにする事はできないが、今後の授業を進める上で有効と思われる点については参考にし、活用していきたい。
- (3) フィードバック：評価が低い項目に対しては、学生の動向を観察しながら改善を進める。

### 2. 授業の相互評価について

- (1) 意義：
- (2) 活用：

### 3. 自己評価点 (3)

### 4. 教育指導上の工夫について

この授業は、入学して、りんごの皮むきもおぼつかない学生が、半年経過後①「対象者に対しての大量調理」を実施し、提供する科目であるが、②試験も実施するので、この2点から述べる。

①1年前期に行う調理実習と比較すると、取り組み方が消極的な者ほど実習前と後のギャップを感じているようである。（盛り付けにこんなに長い時間かかるとは思わなかった等）そのためには、過去に実施した失敗例や成功例をなるべく多く話し、事前準備の重要性を理解してもらうよう努めている。しかし、この授業中は、学生により形態がまちまちのため、話す時間は他の時間を使用している。また、クラス全員がカフェテリアに入室できないため、半数は教室で課題を与えているが、その間教員・助手の監督ができず、学生のみで過ごさせているのが悩みである。

②既に学習した関連科目との系統立てた理解ができていない。前期に学習する調理学では、今後行う大量調理について具体例を提示し、比較しながら授業を行っているが、理論と実際が身に付いていない。また、分数や割合（%）の計算ができない学生も多く、塩を○%濃度の調味料へ換算すると何g必要かということ以前に、できあがりの料理を○：△：□で分配した場合の計算ができない。その計算方法を理解させようとしても理解できないので分数の算出方法を教えるから始めるが、これが短大栄養士教育なのかと思うほど、個別対応に多くの時間を必要としているのが現状である。

複数の教科（心身も含む）で問題を抱えている学生も多いため、教員相互の話し合いの場（教授会（教員）等）も必要ではないかと思われる。

その他：男子学生の入学に伴い、実習室の調理台の高さが合わない傾向にあるため、今後入れ替えを検討している。

## 【平成 20 年度】教育に関する自己点検・評価

氏名：加藤 由美子 担当科目名：給食管理実習（校内Ⅰ）

### 1. 授業評価について

- (1) 意義：学生の授業に対する各項目別傾向の把握でき、教員独断でなく客観的に判断できる点ではよいと思う。